

## 中学生の飲酒に対する価値感とコマーシャルの影響

新潟大学医学部衛生学教室（主任：山本正治教授）

外山 千也・遠藤 和男・羽賀 正人

藤口 憲輔・布施 道子・伊藤 隆

### The Attitude of Junior High School Students to Drinking and the Effect of Advertisement on Alcoholic Beverage

Senya TOYAMA, Kazuo ENDOH, Masato HAGA,  
Kensuke FUJIGUCHI, Michiko FUSE and Takashi ITO

*Department of Hygiene and Preventive Medicine, Niigata University  
School of Medicine (Director: Prof. Masaharu YAMAMOTO)*

かつて、アルコール問題の大半は成人に関するものが中心であった。しかし、最近のアルコール消費量の急激な増加は、成人男子が毎日飲酒するだけでは説明できず、女性や高齢者、青少年等、従来、積極的に飲酒人口に組み入れられなかった人々の流入によることが説明されている<sup>1)</sup>。

特に、青少年の飲酒は、成人での恒常的な飲酒パターン形成へのいわば「一里塚」であり、さらに、米国での青少年のアルコール問題も、早晚、日本に上陸すると言われている<sup>1)</sup>。

従って、青少年の飲酒は、量的な面だけが問題なのではなく、飲酒に対する質的な面、即ち、飲酒に対する価値感や、飲酒行動がどのように形成されていくのかという視点が重大な意味をおびてくると思われる。

これらの飲酒行動形成過程全体を解明するためには、もちろん、我が国における、社会経済、文化に至るあらゆる面からの詳細な考察が必要であるが、今回は、青少年を取りまく飲酒環境の中で、現代に特徴的なファクターとして、主に、「マスコミにおける、お酒のコマーシャル」問題を取り上げた。

特に、テレビ、ラジオでの宣伝は、大人、子供の別を問わず、かつ、好むと好まざるとにかかわらず、毎月、視聴者に語りかけてきている。そこで、われわれは、このような風潮が、青少年の飲酒に対する意識にどのような影響を与えているかを把握する為、アンケート調査を実施した。又、青少年の飲酒行動に関する調査

は、従来、大学生や高校生が中心であった<sup>1)-6)</sup>が、「意識形成」という観点から、研究対象をより若年で、かつ、アンケート調査が可能な年代である「中学生」とした。

### 調査方法

表1に示したアンケートを新潟市内の某中学2、3年生の男女368名（男182名、うち、2年80名、3年102名、女186名、うち2年95名、3年91名）に無記名で記入してもらい回収した。

回収されたのは男179名（95.6%）、女175名（94.1%）であった。

### 調査結果

アンケート調査結果について、以下に、1. 結果の概要、2. コマーシャルとの関係、3. 集団の方向性に分けて紹介する。

#### 1. 結果の概要

調査の学年別、男女別結果を表2に示す。又、全設問において、学年別、男女別に回答の割合について $\chi^2$ 検定を行ない、有意の差が認められた設問については表3に示した。

以下、設問ごとに概略を述べる。

設問(2): 「お酒」の必要性については、全体で43.0%が「どちらかといえば、あった方がよい」として最も

多く、「必要である」の21.2%を加えると肯定的な意見が64.2%を占めた。

設問(3): 大人になったら「お酒」を飲みたいと思うか、という問いに対しては、全体では、「わからない」と答えた者が44.7%と最も多く、ついで「はい」が38.4%となった。又、「いいえ」は女の方に多かった(P<0.001)。

設問(4): (3)での「はい」の理由については、「友人とのつきあいに必要であるから」が47.8%と最も多かった。

設問(5): (3)で「いいえ」の理由については、「健康に悪いと思うから」が39.0%と最も多く、ついで「おいしくないから」が32.2%であった。

設問(6): テレビの「お酒」のコマーシャルに対する反応は、「自分には関係のないことだと思う」が41.5%と最も多く、ついで「自分もいつかは飲んでみたいと思う」が32.7%であった。一方、「「お酒」のコマーシャルはキライなのでやめてほしい」と答えた者は0.9%にすぎなかった。

設問(7): 「お酒」の経験については、全体の60.1%が「ある」と答え、「ない」と答えた者は19.2%にとどまった。

設問(8)-A: 「お酒」の初飲時期は、男女とも小学校六年生としているものが最も多く、全体で18.7%を占めた。又、小学校五年生から中学校一年生までの3年間で、全体の44.4%を占めている。

設問(8)-B: 「お酒」の初飲のきっかけとしては、お正月・大晦日が全体で37.8%と最も多かったが、特別な年中行事や旅行と関係なく「夕食の時等」が31.1%を占めていた。

最近、テレビ等で「お酒」のコマーシャルがよくあります。また「お酒」を飲んで事故をおこしたというニュースも聞かれます。そこで中学3年生の皆さんに「お酒」についてみだん感じていることをお聞かせ願いたいと思います。名前を書く必要はありませんので、ありのまま答えて下さい。

以下の質問の該当するところにマルをつけて下さい。「理由」はいくつでも該当するものにマルをつけて下さい。カッコ内は該当理由を記入して下さい。

- (1) 私は (1. 男子 2. 女子) 学生です。
- (2) 世の中に「お酒」(ビール、日本酒、ウイスキー、ワイン等) は必要と思いますか?
  - 1. 必要である
  - 2. どちらかといえば、あった方がよい
  - 3. # ない方がよい
  - 4. 絶対禁止すべきである
  - 5. わからない
- (3) あなたは、大人になったら「お酒」を飲みたいと思いますか?
  - 1. はい
  - 2. いいえ
  - 3. わからない
- (4) (3)で「はい」と答えた人はなぜですか?
  - 1. おいしいから
  - 2. 健康によいと思うから
  - 3. 友人とのつきあいに必要であるから
  - 4. その他 ( )
- (5) (3)で「いいえ」と答えた人はなぜですか?
  - 1. おいしくないから
  - 2. 健康に悪いと思うから
  - 3. 事故や非行につながるから
  - 4. お酒に酔うのはよくないと思うから
  - 5. その他 ( )
- (6) テレビ等で「お酒」のコマーシャルを見てどう思いますか?
  - 1. 自分もいつかは飲んでみたいと思う
  - 2. 自分には関係のないことだと思う
  - 3. 「お酒」のコマーシャルはキライなのでやめてほしい
  - 4. その他 ( )

表2 結果の概略

(2年 男79名, 女89名, 3年 男95名, 女86名)

設 問	2 年		3 年	
	男 (%)	女 (%)	男 (%)	女 (%)
(2) 「お酒」の必要性	79 (100.0)	89 (100.0)	95 (100.0)	86 (100.0)
1. 必要である	22 ( 27.8)	16 ( 18.0)	23 ( 24.2)	13 ( 15.1)
2. どちらか言えばあった方がよい	32 ( 40.5)	37 ( 41.6)	39 (41.1)	42 ( 48.8)
3. どちらか言えばない方がよい	5 ( 6.3)	11 ( 12.4)	9 ( 9.5)	11 ( 12.8)
4. 絶対禁止	2 ( 2.5)	2 ( 2.2)	1 ( 1.1)	1 ( 1.2)
5. わからない	18 ( 22.8)	23 ( 25.8)	22 ( 23.2)	18 ( 20.9)
6. 無 回 答	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	1 ( 1.1)	1 ( 1.2)

表 1

- (7) あなたは「お酒」を飲んだことがありますか？
1. ある
  2. ない
  3. はっきり憶えていない
- (8) (7)で「ある」と答えた人のみ、次の質問に答えて下さい。
- A. はじめて「お酒」を飲んだのはいつですか？  
(例：小学校6年生の頃)
- B. それはどんな時ですか？  
(例：お正月に家族と・・・)
- C. 最初に「お酒」を飲んだ時、どんな感じでしたか？
1. おいしかったのでまた飲みたいと思った
  2. おいしくなかったので二度と飲みたくないと考えた
  3. その他 ( )
- D. 今年になってから「お酒」を飲んだことのある人は答えて下さい。
1. 何を飲みましたか？ (例：ビール)
  2. どれくらい飲みましたか？ (例：コップ/杯)
  3. 誰と飲みましたか？ (例：家族と・・・)
- (9) (7)で「ない」と答えた人のみ、次の質問に答えて下さい。
- 「お酒」を飲まないのはなぜですか？
1. 「お酒」を飲んではいけないと強い意志をもっている
  2. 親に飲んではいけないと言われていた
  3. その他 ( )
- (10) 「お酒」を飲みすぎると健康に悪い影響がでます。「お酒」の影響について詳しく知りたいと思いますか？
1. はい
  2. いいえ
  3. その他 ( )
- (11) 最近、女性の飲酒者が増えているといわれますが、あなたはどう思いますか？
1. よいことだと思う
  2. よくないことだと思う
  3. 時と場合による
  4. その他 ( )
- (12) 妊娠中のアルコール飲用が胎児に影響を与えるということを知っていますか？
1. ある
  2. ない
- (13) 「ある」と答えた人は何で知りましたか？
1. 本・雑誌
  2. 新聞
  3. テレビ
  4. ラジオ
  5. 人から
  6. その他 ( )
- (14) あなた自身、妊娠中のアルコール飲用が胎児に影響すると思いますか？
1. 影響すると思う
  2. 影響しないと思う
  3. わからない
  4. その他 ( )
- (15) 「影響する」と思う人は、どのような影響があると思いますか？
1. 奇形児が生まれる
  2. 知恵おくれになる
  3. 虚弱体質になる
  4. 障害児が生まれる
  5. 発育を妨げる
  6. よくわからない
  7. その他 ( )

—御協力ありがとうございました—

新潟大学医学部衛生学教室

(3) 大人になったら酒を飲む	79 (100.0)	89 (100.0)	95 (100.0)	86 (100.0)
1. はい	40 ( 50.6)	31 ( 34.8)	36 ( 37.9)	27 ( 31.4)
2. いいえ	10 ( 12.7)	16 ( 18.0)	8 ( 8.4)	25 ( 29.1)
3. わからない	29 ( 36.7)	42 ( 47.2)	51 ( 53.7)	34 ( 39.5)
4. 無回答	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)
(4) (3)での「はい」の理由	40 (100.0)	31 (100.0)	36 (100.0)	27 (100.0)
1. おいしい	12 ( 30.0)	15 ( 48.4)	8 ( 22.2)	5 ( 18.5)
2. 健康によい	2 ( 5.0)	0 ( 0.0)	4 ( 11.1)	4 ( 14.8)
3. 友人とのつきあい	20 ( 50.0)	13 ( 41.9)	20 ( 55.6)	11 ( 40.7)
4. その他	4 ( 10.0)	2 ( 6.5)	4 ( 11.1)	5 ( 18.5)
5. 無回答	2 ( 5.0)	1 ( 3.2)	0 ( 0.0)	2 ( 7.4)

(5) (3)での「いいえ」の理由	10 (100.0)	16 (100.0)	8 (100.0)	25 (100.0)
1. おいしくない	4 (40.0)	5 (31.3)	3 (37.5)	7 (28.0)
2. 健康に悪い	5 (50.0)	6 (37.5)	2 (25.0)	10 (40.0)
3. 事故や非行につながる	0 (0.0)	1 (6.3)	2 (25.0)	2 (8.0)
4. お酒に酔うことがダメ	0 (0.0)	3 (18.8)	1 (12.5)	2 (8.0)
5. その他	0 (0.0)	1 (6.3)	0 (0.0)	2 (8.0)
6. 無回答	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.0)
(6) お酒のコマーシャル	79 (100.0)	89 (100.0)	95 (100.0)	86 (100.0)
1. 自分もいつかは	26 (32.9)	33 (37.1)	34 (35.8)	21 (24.4)
2. 自分と関係ない	38 (48.1)	36 (40.4)	34 (35.8)	37 (43.0)
3. キライ	2 (2.5)	0 (0.0)	1 (1.1)	0 (0.0)
4. その他	13 (16.5)	19 (21.3)	22 (23.2)	26 (30.2)
5. 無回答	0 (0.0)	1 (1.1)	4 (4.2)	2 (2.3)
(7) 飲酒経験	79 (100.0)	89 (100.0)	95 (100.0)	86 (100.0)
1. ある	56 (70.9)	68 (76.4)	62 (65.3)	55 (64.0)
2. ない	12 (15.2)	15 (16.9)	20 (21.1)	20 (23.3)
3. はっきりしない	11 (13.9)	6 (6.7)	13 (13.7)	11 (12.8)
4. 無回答	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
(8)-A				
初飲時期	56 (100.0)	68 (100.0)	62 (100.0)	55 (100.0)
小学校入学前	1 (1.8)	2 (2.9)	4 (6.5)	5 (9.1)
小  一	2 (3.6)	5 (7.4)	2 (3.2)	4 (7.3)
二	2 (3.6)	3 (4.4)	3 (4.8)	4 (7.3)
三	4 (7.1)	5 (7.4)	3 (4.8)	5 (9.1)
四	3 (5.4)	13 (19.1)	8 (12.9)	6 (10.9)
五	20 (35.7)	11 (16.2)	6 (9.7)	8 (14.5)
六	8 (14.3)	7 (10.3)	11 (17.7)	6 (10.9)
中  一	4 (7.1)	9 (13.2)	6 (9.7)	4 (7.3)
二	1 (1.8)	1 (1.5)	2 (3.2)	3 (5.5)
三			3 (4.8)	0 (0.0)
無回答・不明	11 (19.6)	12 (17.6)	14 (18.3)	10 (18.2)
(8)-B				
初飲のきっかけ	56 (100.0)	68 (100.0)	62 (100.0)	55 (100.0)
1. 正月や大晦日	20 (35.7)	31 (45.6)	23 (37.1)	17 (30.9)
2. 冠婚葬祭	9 (16.1)	6 (8.8)	5 (8.1)	12 (21.8)
3. 旅行	3 (5.4)	2 (2.9)	3 (4.8)	2 (3.6)
4. 普通の夕食等	9 (16.1)	23 (33.8)	22 (35.5)	21 (38.2)
5. 無回答	15 (26.8)	6 (8.8)	9 (14.5)	3 (5.5)
(8)-C				
初飲時の「お酒」の感じ	56 (100.0)	68 (100.0)	62 (100.0)	55 (100.0)
1. おいしかったのでもう一度	19 (33.9)	19 (27.9)	10 (16.1)	5 (9.1)
2. おいしくなかったのでもう二度と	22 (39.3)	24 (35.3)	25 (40.3)	26 (47.3)
3. その他	14 (25.0)	22 (32.4)	26 (41.9)	21 (38.2)
4. 無回答	1 (1.8)	3 (4.4)	1 (1.6)	3 (5.5)

(8)-D 今年になってからの飲酒		% 省 略	% 省 略	% 省 略	% 省 略
1. 何を	2. どれ位				
ビール	コップ1杯以下	11	10	8	4
	ク 1杯	6	4	5	1
	ク 1杯以上	2	1	3	2
ワイン	コップ1杯以下	3	5	2	3
	ク 1杯	2	3	3	5
	ク 1杯以上	2	0	1	0
日本酒	コップ1杯以下	6	8	4	10
	ク 1杯	1	1	1	1
ウイスキー	コップ1杯以下	2	1	4	1
	ク 1杯	1	0	1	0
	ク 1杯以上	2	0	0	0
チューハイ	コップ1杯以下	0	1	0	2
	ク 1杯	0	1	2	1
	ク 1杯以上	0	0	0	1
その他	コップ1杯以下	0	0	2	1
	ク 1杯	0	0	1	0
(8)-D-3 誰と飲んだか		37 (100.0)	40 (100.0)	39 (100.0)	33 (100.0)
1. 家族		34 ( 91.9)	35 ( 87.5)	28 ( 71.8)	22 ( 66.7)
2. 友人		2 ( 5.4)	4 ( 10.0)	3 ( 7.7)	5 ( 15.2)
3. 一人		1 ( 2.7)	1 ( 2.5)	7 ( 17.9)	5 ( 15.2)
4. その他		0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	1 ( 2.6)	1 ( 2.9)
(9) (7)の「ない」の理由		12 (100.0)	15 (100.0)	20 (100.0)	20 (100.0)
1. 飲まない強い意志		4 ( 33.0)	6 ( 40.0)	6 ( 30.0)	8 ( 40.0)
2. 親の言いつけ		0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	1 ( 5.0)	1 ( 5.0)
3. その他		7 ( 58.3)	6 ( 40.0)	10 ( 50.0)	10 ( 50.0)
4. 無回答		1 ( 8.3)	3 ( 20.0)	3 ( 15.0)	1 ( 5.0)
(10) 「お酒」の健康への影響を知りたいか		79 (100.0)	89 (100.0)	95 (100.0)	86 (100.0)
1. はい		32 ( 40.5)	39 ( 43.8)	46 ( 48.4)	36 ( 41.9)
2. いいえ		36 ( 45.6)	28 ( 31.5)	26 ( 27.4)	35 ( 40.7)
3. その他		6 ( 7.6)	8 ( 9.0)	19 ( 20.0)	14 ( 16.3)
4. 無回答		5 ( 6.3)	14 ( 15.7)	4 ( 4.2)	1 ( 1.2)
(11) 女性の飲酒者の増加		79 (100.0)	89 (100.0)	95 (100.0)	86 (100.0)
1. よいこと		2 ( 2.5)	6 ( 6.7)	7 ( 7.4)	4 ( 4.7)
2. よくないこと		21 ( 26.6)	23 ( 25.8)	24 ( 25.3)	29 ( 33.7)
3. 時と場合による		46 ( 58.2)	52 ( 58.4)	47 ( 49.5)	49 ( 57.0)
4. その他		9 ( 11.4)	7 ( 7.9)	15 ( 15.8)	4 ( 4.7)
5. 無回答		1 ( 1.3)	1 ( 1.1)	2 ( 2.1)	0 ( 0.0)

(12) 「アルコールの胎児への影響」を聞いたことがあるか	79 (100.0)	89 (100.0)	95 (100.0)	86 (100.0)
1. ある	33 (41.8)	52 (58.4)	50 (52.6)	61 (70.9)
2. ない	45 (57.0)	37 (41.6)	43 (45.3)	25 (29.1)
3. 無回答	1 (1.2)	0 (0.0)	2 (2.1)	0 (0.0)
(13) (12)の「ある」の人の知った手段 (複数回答あり)	% 省略	% 省略	% 省略	% 省略
1. 本	8	12	8	15
2. 新聞	7	5	7	6
3. テレビ	18	23	24	20
4. ラジオ	4	0	4	3
5. 人から	8	29	14	50
6. その他	2	3	5	5
(14) 妊娠中のアルコール飲用は胎児に影響する か	79 (100.0)	89 (100.0)	95 (100.0)	86 (100.0)
1. 影響する	31 (39.3)	58 (65.2)	47 (49.5)	56 (65.1)
2. 影響しない	3 (3.8)	0 (0.0)	3 (3.2)	0 (0.0)
3. わからない	41 (51.9)	31 (34.8)	41 (43.2)	30 (34.9)
4. その他	2 (2.5)	0 (0.0)	2 (2.1)	0 (0.0)
5. 無回答	2 (2.5)	0 (0.0)	2 (2.1)	0 (0.0)
(15) 影響の内容 (複数回答あり)	% 省略	% 省略	% 省略	% 省略
1. 奇形児	13	15	17	28
2. 知恵おくれ	9	12	7	19
3. 虚弱体質	8	9	8	16
4. 障害児	10	11	8	20
5. 発育を妨げる	9	14	10	30
6. よくわからない	15	24	17	48
7. その他	2	3	0	3

表3 回答分布の学年別, 男女別差

設問	(3)	(8)のC	(10)	(12)	(13)	(14)
区分						
学年別		**	*			
男女別	**			**	**	***

有意水準

\* $P<0.05$ , \*\* $P<0.01$ , \*\*\* $P<0.001$ 

設問 (8)-C: 初飲時の感想については, 全体で「おいしかったのでまた飲みたいと思った」が22.0%にすぎなかったが, 逆に, 「二度と飲みたいと思わなかった」は40.2%と高い値を示した。これらの回答には, 男女差はなかったが, 学年間に差が認められた ( $P<0.01$ )。即ち, 二年生の方が, 「おいしかったので, また飲みたい

と思った」が多く ( $P<0.05$ ), さらに, 「二度と飲みたいと思わなかった」とした者は少なかった ( $P<0.01$ )。

設問 (8)-D: 回答者のうち, 「お酒」の種類については, ビール (39.6%), ワイン (25.2%), 日本酒 (22.7%) の順で, 飲酒量は, 酒種によるアルコール含量は無視すると, 59.7%がコップ1杯以下であった。さらに, 飲んだ相手としては79.8%が「家族」で, ついで「友人」, 「一人で」が, それぞれ9.4%ずつあった。

設問 (9): 「お酒」を飲んだことのない者の理由としては, 「その他」が最も多く, 49.3%を占め, 個々人様々であった。

設問 (10): 「お酒」の健康への影響を知りたいかどうかについては, 全体で「はい」が43.8%, 「いいえ」が35.8%であった。この回答では, 3年生の方に, 「その

他が多い ( $P < 0.05$ ) だけで、その他は、男女別、学年別に差はなかった。

設問 (11)：最近の女性の飲酒者増加の現象については、「時と場合による」が55.6%と最も多く、「よくないことだと思う」が27.8%とついで。

設問 (12)：妊娠中のアルコール飲用が、胎児に影響を与えるということを聞いたことがあるかという問いに対しては、全体で、「ある」が56.2%であり、この回答は女の方に多かった ( $P < 0.01$ )。

設問 (13)：「ある」と答えた者の知識の入取媒体としては、延回答数中、「テレビ」が34.3%、「人から」が31.0%と多かった。これらの回答の割合には男女差があったが、特に女の方に、「人から」が多かった ( $P < 0.001$ )。

設問 (14)：妊娠中のアルコール飲用が胎児に「影響すると思う」が55.0%で最も多かったが、「わからない」が41.0%でついで。又、「影響すると思う」は女に多かった ( $P < 0.001$ )。

設問 (15)：「影響」の内容については、延回答数中、「よくわからない」が26.9%と最も多かったが、一方、「1.~5.の具体的な障害」の回答も、71.4%に達した。

## 2. コマーシャルとの関係

今回の対象を、「コマーシャルとの関係」という視点で観察する為、便宜的に、設問(6)の回答に従い、次の3区分に分離し、さらに、それぞれを、学年別、男女別に細分した。なお、設問(6)の回答のうち、3.は全体で3名しかいなかったのので、対象者から除外した。

(分類)

グループA：設問(6)の回答1(自分もいつかは)  
 ♪ B： ♪ 2(自分に関係ない)  
 ♪ C： ♪ 4(その他)

次に、今回のアンケート調査の設問の中で柱である、設問(2)、(3)、(7)、(10)を抽出し、各回答が、それぞれ、五段階、ないしは三段階評価に耐えうるかと判断して、以下の様にスコアを与えた。

(スコア)

設問(2)：「お酒」の必要性

回答 1 …… 5 点  
 ♪ 2 …… 4 点  
 ♪ 3 …… 2 点  
 ♪ 4 …… 1 点  
 ♪ 5 …… 3 点

設問(3)：大人になったら「お酒」を飲む

回答 1 …… 3 点  
 ♪ 2 …… 1 点  
 ♪ 3 …… 2 点

設問(7)：飲酒経験

回答 1 …… 3 点  
 ♪ 2 …… 1 点  
 ♪ 3 …… 2 点

表 4 小グループ別設問間の相関係数

小グループ 設問	A				B				C			
	2年		3年		2年		3年		2年		3年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
(2)と(3)	0.446* N=26	0.691*** N=33	0.468** N=34		0.344* N=38		0.488** N=33	0.495** N=37			0.606** N=22	
(2)と(7)			0.365* N=34								-0.464* N=22	0.393* N=26
(2)と(10)												
(3)と(7)												
(3)と(10)												0.405* N=26
(7)と(10)												0.749*** N=26

有意水準 \* $P < 0.05$  \*\* $P < 0.01$  \*\*\* $P < 0.001$

## 設問 (10): 「お酒」の健康への影響

回答 1 …… 3 点

ク 2 …… 1 点

ク 3 …… 2 点

ここで、12の小グループ、それぞれについて、上記の4つの設問間で相関分析を実施し(それぞれの対応する設問間で無回答は除外)、有意な相関を表4に示した。

これを、まず、コマーシャルに対する反応別に観察すると、「自分もいつかは飲んでみたい」のAグループでは、2年生の男女は、設問(2)の世の中における「お酒の必要性」と設問(3)の「将来の飲酒」のみが正の相関を示し、3年生の男では、これに、設問(2)と(7)の「飲酒の経験」間の正の相関が加わっている。ところが、3年生の女では、設問(2)と(3)の正の相関もなかった。次に、「自分には関係ないことだと思う」のBグループでは、2年生の女を除いて、設問(2)と(3)の間に正の相関があったが、他は全て相関はなかった。又、「その他」のCグループでは、2年生の男女には設問間に全く相関はなく、3年生の男女に、いくつかの相関が観察された。即ち、男では、設問(2)と(3)の間には、前述したいくつもの小グループと同じく正の相関が存在したが、設問(2)と(7)の間は負の相関であった。一方、女では、逆に設問(2)と(7)が正の相関を示し、さらに、設問(3)と(10)設問の「お酒の健康への影響を詳しく知りたい」と正の相関を、又、設問(7)と(10)でも正の相関を示した。

以上の観察からは、グループの性格を規定した3つの属性(「お酒のコマーシャルに対する反応、学年、性」と、4つの設問間の有意な相関係数間には特に一定の傾向は認められなかったが、いくつかの指摘は可能である。例えば、「お酒」のコマーシャルを見て、「自分もいつかは飲んでみたい」又は「自分には関係のないことだと思う」グループは、「世の中に「お酒」は必要」であるなら、「自分も大人になったら飲みたい」(又はその逆)が主であり、「その他」の自分なりの意見を持っている3年生の女は、「世の中に「お酒」は必要」なら、「自分も飲んだ」(又はその逆)とし、「大人になったら「お酒」を飲む」なら、又は、「「お酒」を飲んだ」から、「お酒」の健康に対する影響を詳しく知りたい」(又はその逆)のだとも考えられる。しかし、全てのグループにおいて、「世の中に「お酒」は必要」だからといって、「お酒」の健康に対する影響を詳しく知りたい」とは言

えないし、「大人になったら「お酒」を飲みたい」からといって、「「お酒」を飲んだ経験がある」訳でもないということ等があげられる。

## 3. 集団の方向性

結果の最後として、今回の中学生の集団が、コマーシャルの反応別に、今後、飲酒に対して、どのような方向性をとり得るかということを要約する為に、以下の主成分分析を行なった。

まず、「2. コマーシャルとの関係」で検討した4つの設問のうち、「社会における飲酒への価値感」という意味で設問(2)を、次に「将来の飲酒予定」という意味で設問(3)を、さらに「飲酒の害の予防」という意味で設問(10)をあらためて抽出し、12の小グループ別に設問ごとのスコアの平均値を算出した。ここで、この12のグループの3つの平均スコアを変数として N=12 の主成分分析を行なった(表5)。

表5 相関係数行列の固有値及び固有ベクトル

変 量		主成分	
		I	II
設	問 (2)	0.5815	0.1834
ク	(3)	0.5765	0.5943
ク	(10)	0.5740	-0.7830
固 有 値		2.57231	0.23162
寄 与 率 (%)		85.74	7.72
累 積 寄 与 率 (%)		85.74	93.46

各成分の解釈として、第1主成分の係数はいずれも約0.57であり、「全般的な「お酒」への親和性」を表しているとした。この第1主成分で、即ち累積寄与率が85.74%に達し、第2主成分の固有値は1よりも小さいが、(10)の設問にのみマイナスのベクトル値が存在し、「社会における飲酒への価値」を認めたり、「将来、飲酒する」のが主であれば大きい値をとり、逆に、「飲酒の害を知ろう」と予防的に動けば小さな値を取り得ることから、この、第2主成分は、「酒飲みの可能性の大小」を表現していると解釈されるのであえて取りあげた。

図1をみると、まず、第1主成分軸上に、A、C、Bのグループ順に並んでおり、「全般的な「お酒」への親和性」は、テレビ等のコマーシャルに感化されている可能性が示唆された。一方、全てのグループにおいて、「将来、酒飲みの可能性の大きい」と思われる小グループが、同様に存在していることも注目される。これは、



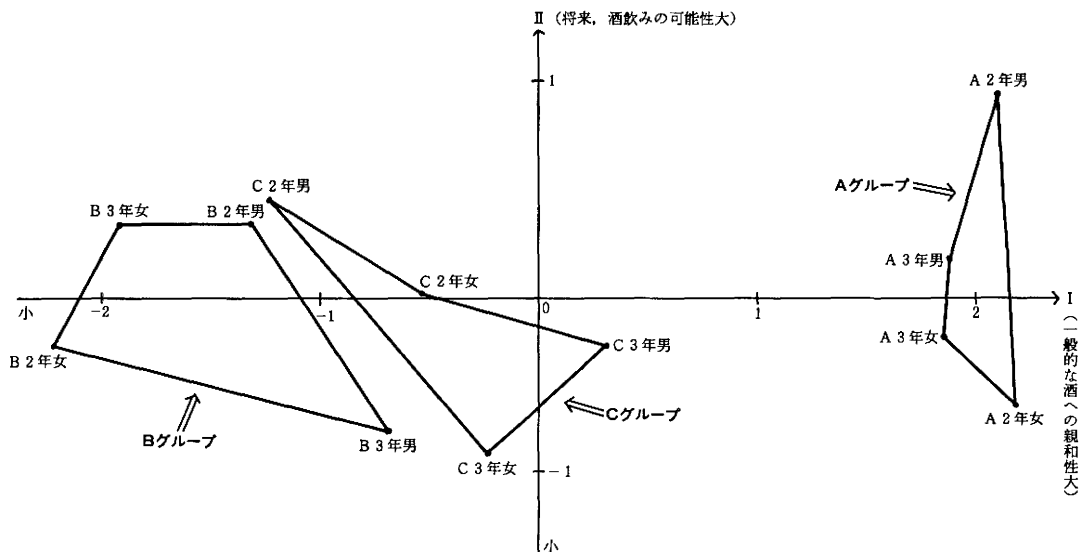


図1 第1主成分—第2主成分平面における各小グループの位置

A, B, C, それぞれのグループにおける 男の小グループに多く見られたが, B グループの3年生の女も, 女にしては高い得点を示していることも注目された。

又, 最も, 「将来, 酒飲みの可能性」の小さなグループとしては, C グループの3年の女, ついで, B グループの3年の男であった。

### 考 察

今回は, 中学生の飲酒行動形成過程を「テレビ等のコマーシャル」の影響という観点で解析を試みた訳であるが, 以下に, 今後, 解決されるべき2, 3の問題点について言及したい。

#### 1. アンケート調査の内容

設問(6)の選択技は4つ設定したが, 以外と4. 「その他」が22.9%もあり, コマーシャルに対する反応別に解析するためには, 今後, 「その他」(=Cグループ)の内容を個々に分析し, 適切な反応区分をより多く設定する必要がある。又, 設問(8)では, 主に, 記述式の回答形式にしたが, 回答のいくつかは, 設問の主旨からはずれていた。従って, 今回は, テレビ等のコマーシャルの反応別の飲酒状況の分析は省略した。できるだけ適切な選択式に変更すべきである。

#### 2. 今後の研究の方向

コマーシャルに対する反応別にいくつかの解析を実施

したが, これらはコマーシャルの影響を証明していることにはならない。つまり, 因果関係を証明しているのではなく, 設問間の相関や, 反応グループ別の傾向を観察しているにすぎない。ただし, 今回の観察では, コマーシャルと, 「お酒」への親和性は, 関係が示唆されたものの, コマーシャルと「将来の酒飲みの可能性」は特に関係がなかった訳である。即ち, 中学生は, テレビ等のコマーシャルによって, 「お酒」になじんでいる可能性はあるにしても, コマーシャルが積極的に「将来の酒飲みの可能性」を形成しているとは言えないという結果になった。

今後, 青少年における飲酒行動形成過程を解明するためには, 冒頭で述べたように, 多要因について順次, 検討がなされなければならない。中でも, 斎藤<sup>1)</sup>が大学生や高校生に対して実施しているような, CMI, MMPI を用いた心理・人格傾向調査と飲酒行動に関するアンケートの組み合わせを中学生にも応用すべきと考える。

さらに, 今回とりあげた「お酒」のコマーシャルの問題も含め, 飲酒に対する社会の考え方は国際的に大きく異なる(米国ではテレビでの「お酒」のコマーシャルは皆無)ことから, このような, 言わば, 「自然の実験」とも言うべき国際間の比較も, 青少年の飲酒行動形成の観点から, 今後重要になってくると思われる。

## 要 約

青少年を取りまく飲酒環境の中で、現代に特徴的なファクターとして、主に、「マスコミにおける「お酒」の商業的」問題を取りあげ、これらの商業的が、飲酒行動形成過程にどのような影響を及ぼしているのかを、中学2、3年生の男女を外象としてアンケート調査を実施した。その結果、商業的を見て、「自分もいつかは飲んでみたいと思う」グループは「「お酒」への親和性」が大きく、「自分には関係ないことだと思う」グループは小さかった。しかし、商業的への反応とは無関係に「将来、酒飲みの可能性」の大きいグループが存在した。

## 参 考 文 献

- 1) 斎藤 学： 青少年の飲酒行動と飲酒教育の方法論  
 に関する研究 — 青少年の飲酒行動に関与する心理的、人格的要因についての研究 —, 昭和55年度調査研究報告書(Ⅱ), (社)アルコール健康医学協会(東京), 1981.
- 2) 青山莞爾： 大学生の飲酒様態と集団飲酒の指標, アルコール研究と薬物依存, 17: 51~73, 1982.
- 3) 谷 直介, 他： 飲酒に関する意識調査(第3報) 大学生, アルコール研究, 12: 213~212, 1977.
- 4) 豊田清修： 学生とその家族の飲酒状況およびその関連性, アルコール研究, 11: 67~72, 1976.
- 5) 谷 直介, 他： 飲酒に関する意識調査(第4報) 高校生, アルコール研究, 13: 135~142, 1978.
- 6) 斎藤 学： 青春後期における飲酒習慣の定着と逸脱に関する研究, 昭和56年度調査研究報告書(Ⅱ), (社)アルコール健康医学協会(東京), 1982.  
 (昭和60年12月6日受付)